

行政視察報告書

参加議員	議会広報広聴推進会議 会長 藤田 誠 副会長 木戸 喜美男 委員 中田 靖人 委員 関 貴光 委員 軽米 智雅子 委員 万徳 なお子 委員 木下 靖
調査期間	令和8年7月31日（金）
調査先及び 調査事項	富山県 「出前講座について」

視察概要

■ 調査先	富山県
■ 調査事項	出前講座について
■ 調査内容	1 調査日 令和8年7月31日（金） 2 調査目的 富山県議会では、議員が学校を訪問し高等学校の生徒等に対し主権者教育を行う「出前講座」を実施している。この取組が、全国都道府県議会議長会から、全国の地方議会が参考にすべきモデル事例として評価されたことから、本市議会で実施している議会報告・意見交換会の参考とするため、視察するもの。 3 対応者 ・ 富山県議会議員（広報編集委員会 委員） 藤井 大輔 ・ 富山県議会事務局 議会事務局長 山本 美穂子 議会事務局次長 富士原 禎 調査課長 伊東 一彦 調査課課長補佐 坂野 哲史 調査課主任 嘉指 卓朗 調査課主任 水岡 大思 4 富山県議会から出前講座の取組について説明 富山県議会では、議員が学校を訪問し高等学校の生徒等に対し主権者教育を行う「出前講座」を実施している。 この取組について、説明があった。（詳細は下記のとおり） （1）富山県議会 広報編集委員会の概要 ・ 平成30年度に、富山県議会における「議会改革推進会議」において、今後の議会活動の広報について検討する「広報編集委員会」の設置を決定し、令和元年度から議会

広報紙の発行や主権者教育の企画・運営など様々な活動を展開している。

(2) 出前講座の概要

- ・高校生に主権者教育を推進するための活動として、令和3年度から継続して実施しており、大学へも拡大している。

【高校での実施例】

①学校で事前学習

学校での公共等の時間などを使い、例えば税金の使い方、役所の仕事などを調べる。

②当日事前打ち合わせ（議員・学校）

③出前講座（100分程度）

- 1 広報編集委員長の挨拶、議員自己紹介
- 2 役所や税金への理解を深める（グループワーク）
 - ・「役所がする仕事」や「税金の種類」について発表
 - ・クラスで集めたお金（1人1万円）の使い方をグループで話し合い、発表
- 3 集めたお金の使い方の議論（グループワーク）、講評など

④事後振り返り（議員・学校）

【大学での実施例】

①当日事前打ち合わせ（議員・教授）

②出前講座（90分程度）

- 1 概要説明、広報編集委員長の挨拶、議員自己紹介
- 2 インプットの時間
 - ・県内の投票率の状況、諸外国との比較などを議員から説明
- 3 グループワーク
 - ・若者の投票率が低い理由、投票率向上策、富山をよくするための政策について話し合い、発表

③事後振り返り（議員・教授）

(3) アンケート結果、参加者生徒の感想

【受講者アンケート】

- ・令和7年度の実施例では、受講者アンケートを全ての学校で授業前の事前アンケート及び授業の後の事後アンケートを実施しており、その結果を比較したところ、ほぼ全ての学校で「政治や社会問題への関心」や「投票行動への意識」が向上した。

【受講者からの感想】ほとんどがポジティブな意見であった。

- ・自分の意見を政治に反映することや、議員の意気込みなどを知れてよかった。
- ・クイズ形式での話し合いで、楽しく政治や議会について学ぶことができた。
- ・講座を受ける前は面白くなさそうと思っていたけど、実際受けてみたら楽しかった。

(4) 情報発信・周知

【文書での募集案内・周知】

- ・年2回程度、県内全ての高校に対し、県議会から文書で出前講座の参加校を募集

- ・ T O Y A M A ジャーナルでも募集について告知

【SNSでの発信】

①富山県議会公式SNS（Facebook、X）で発信

- ・ 出前講座の終了後に写真とともに投稿
- ・ 各議員には事務局で撮影した写真の提供と併せて、議会SNSで発信した旨を周知

②議員の各個人SNSやHPでの発信

- ・ 各参加議員が自身のSNSやHPで発信（Facebook、Instagram、Xなど）

5 主な質疑応答

問 議会での発言と生徒の前で話すことは違うと思うが、議員が準備や打ち合わせをしているのか。

答 議員の8割以上が事前に詳細なトークスクリプト（5分単位での授業進行案）を渡され、レクチャーを受けている。また、2人1組での授業を基本とし、若い方と交流したことがあったり、教員免許取得を目指していた経験があるなどの議員が主体的に話し、初参加の議員はサポート役として見ていただき、徐々に慣れていく仕組みがある。全体の約半数の議員が独り立ちできるレベルに達しているが、若手議員が主に活動を推進している状況である。

問 青森市議会で行っている「カダる会」（議会報告会）では、中学生などとワークショップ形式も取り入れているが、内容がテーマ設定を含めてワンパターンになりがちである。市役所の税金の使い方などがテーマに挙がることが多いが、これまでテーマについて事前に話し合いをしてきたのか。

答 主権者教育として、生徒からのアイデアを引き出す狙いはあるが、特に「議会の必要性」、「民主主義の決定プロセスの理解」を重視している。
民主主義の意思決定は単なる多数決ではないこと、プレゼンを経て決定するプロセスの重要性を伝え、生徒の当事者意識を醸成する。
税金や役所の仕事は社会科の「公共」の授業で事前に学習してもらい、その内容を踏まえた上で出前講座に繋げている。
初めから税金や役所の仕事をテーマにスタートする方が進めやすい。

問 議員としてこの出前講座を通じて感じたことはあるか。また、学生などの反応は。

答 実際に高校生から学ぶことの方が多い。特に子どもたちが当事者として公共の課題を考えている姿には驚く。例えば、公共交通の利便性などは彼らにとって切実な問題で、私たち大人の目線とは違う価値観や希望を持っていることを実感する。
この関わりは議員にとっても非常に貴重な機会である。

問 開催実績を見ると、参加議員数が3名から17名とばらつきがあるが、参加議員の選定基準は。

答 学校の規模に応じて、1クラスあたり2名以上の議員が参加することを基本にしている。例えば5クラスある学校なら最低10名の議員参加をお願いしている。

問 開催実績を見ると、高校では主に公共の授業内で出前講座が行われている。
大学の場合は政治学や地方自治法などの履修科目と関連することが多いと思うが、調整・すり合わせはどのように行われているのか。

答 大学に関しては、大学側が依頼してくるケースが多い。
大学生向けには高校生とは異なり、時間数やレベルが異なるため、それに合わせて内容をアレンジし、若者の政治参加に関するアイデアを出し合う形式で実施している。
今後も他の大学から依頼があれば、柔軟に調整して実施していく予定。